

## (25) 都美恵神社 (つみえじんじゃ)

住所： 三重県伊賀市柘植町2280

TEL： 0595-41-1071

参拝日： 2013年5月1日、2013年7月20日

主祭神： 栲幡千千比賣命

祭 神： (配祀) 経津主命、布都御魂命

(合祀) 倭姫命、應神天皇、健甕須佐之男命、稻田比賣命、仁徳天皇、天穗日命、火産靈命、大山祇命、三筒男命、安閑天皇、大山咋神、建御名方命、大日靈貴命、埴山比賣命、彌都波能賣命、市杵島比賣命、伊弉册命、菊理比咩命、天太玉命、宇気母智命、伊勢津彦命、天手力男命、武甕槌命、宇迦能御魂命、天津彦彦火瓊瓊杵命、木花佐久夜比賣命、八坂刀賣命、玉依比賣命、建角身命、猿田彦大神、天御柱命、国御柱命、火之迦具土命



鳥居と拝殿



境内

7月20日に都美恵神社に赴くと境内は祇園祭の準備で賑わっていた。明神造りの石の鳥居をくぐると右手に大きな石灯籠と神明造りの木の鳥居と神宮遙拝所と刻まれた大きな石柱がある。石碑には「神宮遙拝所とは、わが国の神社の本宗と仰がれる伊勢神宮にむかって、この地から遙かに拝む神聖な場所であり、皇大神宮護鎮座2000年を記念して建立したものであります。この柘植の地は、皇大神宮が伊勢の五十鈴川の川上に鎮座される以前の第11代垂仁天皇即位2年(西暦前28年)の御代倭姫命が天照坐皇大御神を奉載され倭の国から各地を巡行し、柘植川上流沿岸の当地に「敢都実恵宮」(元伊勢)として二年間鎮座し奉斎されたという明確な史実があり神宮と実に縁の深い場所であります。」とあるように本神社は倭姫命が聖地を求めて巡行し、その途中、当神社に2年間鎮座されたことから元伊勢と言われている。参道を歩き二つ目の石の鳥居の右にある手水舎で手を洗い、階段を上ると、権現造の拝殿と幣殿がある。本殿は外削りの千木と5本の枕木が乗った流造、両脇には流造の相殿が二棟あり、その他神輿庫や神饌所、社務所などがある。社務所の脇には細い急な階段があり、上ったところに御神体をかくまう祠である洞穴があった。一体は社叢が豊富でヒノキ、ユズリハ、シュロ、アラカシ、タカノツメ、サカキ、スギ、ヤブツバキ、サクラ、イロハモミジ、



本殿



神宮遙拜所



神が隠れる祠

クスノキ、スダジイ、ツブラジイ、タブノキ、コシアブラ、タラノキ、フジ、ヤブニッケイなどが観察された。

祭祀は例祭（4月5日）、その他年中恒、例祭儀11回、祇園祭（7月第3日曜日）、秋季慣例祭（10月1日）

境内神社：耶須久邇社（井海恒男命外240柱）  
金比羅社（大物主神） 愛宕社（火之迦具土神） 秋葉社（火産霊神）

宝物等：石造鳥居（町指定文化財・寛文12年〈1672〉） 棟札（元穴石神社、町指定文化財・正保3年〈1646〉） 棟札（元倉部天神社、町指定文化財・文亀元年〈1501〉）

由 緒 （境内石碑）

都美恵神社の起源は古く西紀二、三世紀以前ではないかと思われる。我が国へ渡来してきた北方民族(出雲民族)がこの柘植へ移住してきたことは、伊勢風土記逸文に「伊賀の事志(あなし)の社に坐す神、出雲の神の子出雲建子命、又の名は伊勢津彦の神、又の名天玉命、此の神、昔、石もて城を造り、其の地に坐しき、ここに阿倍志彦の神、来り集い勝たすじて還り却りき。因りて名を為しき云々」とあることから、霊山の中腹穴師谷にこれらの民族の祀っていた神であることは事実のようた。

この神社のもとの名は穴石(穴師)神社又は、石上明神ともいって上柘植村の産土神として祀られていたが、寛永21年(1644)大洪水の為社地欠損甚だしく、正保3年(1646)今の地に移されたことは、種々の古文書から明らかであるし、その時の社殿造営の棟札(式内社 正保3戊辰8月27日)も町文化財として今日残されている。

この神社の祭神は栲幡千千比売命、布都御魂命、布津主命外三十三柱となっているが、又他の一本によるともとの祭神は木花開耶姫であったとも伝えられている。都美恵の社号については、一村一社の合祀(明治42年4月)後、大正11年7月に現社号に改称されたもので倭姫世紀、伊勢御鎮座遷幸図略、二所皇太神宮遷幸要略等にある「敢都美恵宮」から敢」をとって撰定されたもので、即ち都美恵は柘植の古語であり神宮縁りの地でもある。

こうした由緒のある宮をわれわれの産土神として末永く祀りつぎたいものだと思う。  
村主 種次郎 記